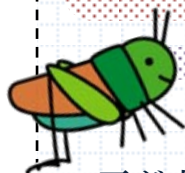


ひびきあい

夏が来れば、思い出す



校長 岡田 克己

夏が来ても、尾瀬に行ったことがないので「遙かな尾瀬や遠い空、……野の小径」などは思い出ませんが、8月になると今までの夏休みのことを思い出します。

毎日いたずらに暑くて、ただただ暇(ひま)でだらだらしていた小学生の頃。田舎に行くのがたった一つの贅沢。貧乏だったから、旅行やレジャーとはほど遠い生活でした。当時、家に電話もなかったから、夏の間はクラスの友達とも会うことや連絡を取ることもありませんでした。中学生になると、部活の日々。水も飲めずに、ひたすら汗をかく運動ばかりで、クラクラしていました。当然家にクーラーなどなかったのも、夜も暑さで眠れなかったものです。高校の頃は、おにぎり持参で冷房のある図書館に行って勉強していました。一生で一番勉強していた頃です。……先生になってからも、しばらくは図書館で勉強していました。まじめだったなあ。

*** **

我が家ではネコを飼っているのでなかなか旅行には行けませんが、今年の夏もあちらこちらでいろいろな経験をしてきました。私は自分が楽しい思いをすること以上に、そここで楽しそうな人々の顔を見ることがとても好きです。祭りに来ていろいろなものを食べていく人、野球場で応援用のユニフォームを着ている人、電車などで家族そろってはしゃいでいる人、わくわくしながら映画館で並んでいる人、テレビで東海大相模を応援している人、どの人も本当に嬉しそうに楽しそうです。みんなが、心より喜んでいるようです。夏には、そんな光景が繰り広げられ、本当に幸せそうだなあと感じます。幸せのお裾分けに預かるために、出掛けているようなものです。

*** **

しかし、そんな思いとは裏腹に、寝屋川の事件は心に重くのし掛かる出来事です。被害に遭った二人は、この3月までは小学生だったのです。なぜ、深夜に出歩かなければならなかったのでしょうか。そして、犠牲にならなければならなかったのでしょうか。何ともやるせない気分です。

ほかに、日航機墜落の慰霊、広島・長崎の原爆記念日、終戦記念日、去年の広島の土砂災害など、悲しみを伴う記憶もあります。楽しい思い出もあるけれど、語り継いでいかなければならないこともあります。それが現実です。これらのことを思うにつけ、改めて、

〈命の大切さ〉 〈他(の友達)を尊重すること〉
〈社会の一員であることを自覚すること〉



を考えてしまいます。言い尽くされたかのようなのですが、これらのことはやっぱり大事なのです。どんなに世の中が便利になっても楽しいことがあっても、それ以上に、人の命は尊いものだし、人のことは大事にしなければならないものです。そして、何より自分は間違いなくこの世に生きているかけがえのない存在だからこそ、社会のルールを守るべきなのです。どれ一つとして、雑に扱ったり無視したりしてはいけません。「分かっているよ」と言われても、何度も何度も確認していくべきことだと思います。長い休みが終わって、張り切っている子がいると同時に不安を感じている子もいると思います。ぜひ、ご家庭でも話題にさせていただければと思います。